

の禍を主として道一火修羅場を演ずるに至り、多議團に於ては教名、警察側数石、保安係員八名、負傷者を生じた事に至り、

此格闘の状態より多事二十分、一時工場内へ引込まれるハク、多議團

は因島署長末馮保安係食堂に於て説諭の上直下、放鬆せられたり。一方此大衝

突と同時に後部は因島病院横リ、大師附近に於ても官憲との衝突を見るに至れり。

かくて後等は多議團本部へ引揚り解散、際野式士組瀬野久司は一同、曰く

本日の大山神社参拝の示威運動より、多議團の意氣益々昂るを認め吾

々は此團結の力と此旺盛の意氣益々進んで熱誠なる所、民諸君の後援より、横暴な

る大阪鐵工所を打伏せたるハ、吾々は大阪鐵工所の屋伏する迄此團結を解

かざる事をも誓ふと稱して益々之を煽動せり。

九日

昨日の衝突に依りて愈々勢不穩、騒ぎの度を増すに至り、多議團は郊外散歩名

を擧げて或る恐る可秘密會議を開可、警察力に抗して因島を避けて管轄外

たが對岸愛媛縣生名村へ舟に乗り早朝より渡るを見る。此秘密會議の結果

は如何なるものなりしや不況なるも決死隊十三名を出して工場幹部を亡す等。

噂傳うたりしも信を置くべきならず。

斯くて百五六十名の一隊は土庄町より聞ゆる程、歌いつ、庶務保安係警池本富市

氏宅を襲ふべく途中處々其宅を尋ね同じく生名村ある土井川秋松警舎手留

母宅を焼打するとかの暴言を吐き遂に村役場より池本警舎宅を尋ね知るや

午後一時頃ワツシヨくと押寄せ當時工場保安係員ハ五月二十日以來帰宅せず

爭議落着迄工場警備(任に當り)折柄労働爭議の如何なるものなるかも知ら

ざる七十九才の母堂唯一人淋しく留守居せる處に突然の襲撃の會ひに

驚く内は彼等は庭を干しありし除虫菊を飲料に供すべし井戸を攪じ、大小三個の

石を風呂釜に投ず込み庭の植木を折り、或は草履は無きやと一足草履を

持去り、且つ種々の暴言脅迫的言を弄し此後晝夜度々来ると云ひ、幾して引揚り、

之を耳にするや直ちに池本警士より母堂を見舞ひめし際、母堂は非常恐怖し。